



現金およびバウチャー支援(CVA): 概要の説明と適用機会

国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)
現金給付プログラム担当課長

ジョゼフ・オリベイロス

2025年12月4日



本日の講演内容

1. 人道的現金・バウチャー支援の概要
2. 高所得国/先進国での実例
3. 日本における適用機会
4. 質疑応答

アフガニスタン赤新月社は、ヘラートを拠点とする中小企業・気候変動プロジェクトにおいて収入向上のための条件付き現金給付支援を行っている



現金およびバウチャー支援(CVA)

現金・バウチャー支援(CVA)とは？

現金およびバウチャー支援(CVA)とは、個人、世帯、またはグループ／コミュニティの受益者に対し、人道的ニーズを満たすために現金給付や商品・サービスのバウチャー(引換券)を直接提供することを指します。

2つの主なタイプ

- 現金
- バウチャー(引換券)

特徴


- 条件付き vs. 無条件
- 多目的現金援助(MPC)

給付方法

- 物理的 – 封筒入り現金
- デジタル – モバイルマネー、銀行振込、送金、プリペイドカード

CVAを使用する利点

1. **尊厳と選択:** CVAは人々が自分で必要なものを必要な時に選べるため、選択肢と自律性を提供し、不要な物資による無駄を避けます。
2. **柔軟性:** 受給者は変化するニーズや状況に合わせて支援を調整できます。1回の送金で、食料、住居、健康、教育、その他のニーズをカバーできます。
3. **コスト・スピード・効率:** CVAは現物援助よりも提供が速く、物流コストも少なく済みます。デジタルで提供され、迅速に拡張でき、さまざまな状況に合わせて調整できます。25～30% 効率が向上します(出典: CALP、GiveDirectly)。
4. **市場活性化:** CVAは、市場を通じて現金を循環させて需要を創出し、地元企業を活性化させることで(乗数効果)地元経済を支援し、地域社会の回復を早めます。
5. **優先順位:** 危機の影響を受けた人々は、条件が許せば、現物援助よりも現金援助を圧倒的に好みます(例: UNHCRの受益者は80%が現金を選びます)。
6. **レジリエンスへの道筋:** 社会保障、生活支援、金融サービスと連携することで、より強靱な生活基盤につながります。



状況に応じて、物資支援やサービスと組み合わせて多様なニーズに対応します

実現可能性と適切性

実現可能性

市場条件

- 需要に応じて定期的に供給される機能的な市場がある
- 必要な物資が現地で入手可能
- 市場へのアクセスが可能(物理的・安全・資源面)



運用条件

- 現金が安全かつ効果的に提供できる
- 機能的で信頼できる決済システムがある
- プログラム運営の専門知識と能力がある



適切性

受益者のニーズ

- 対象者がすでに現金を利用している
- 基本的なニーズのための食料や収入にアクセスできない
- 安全関連のリスクが増大しない

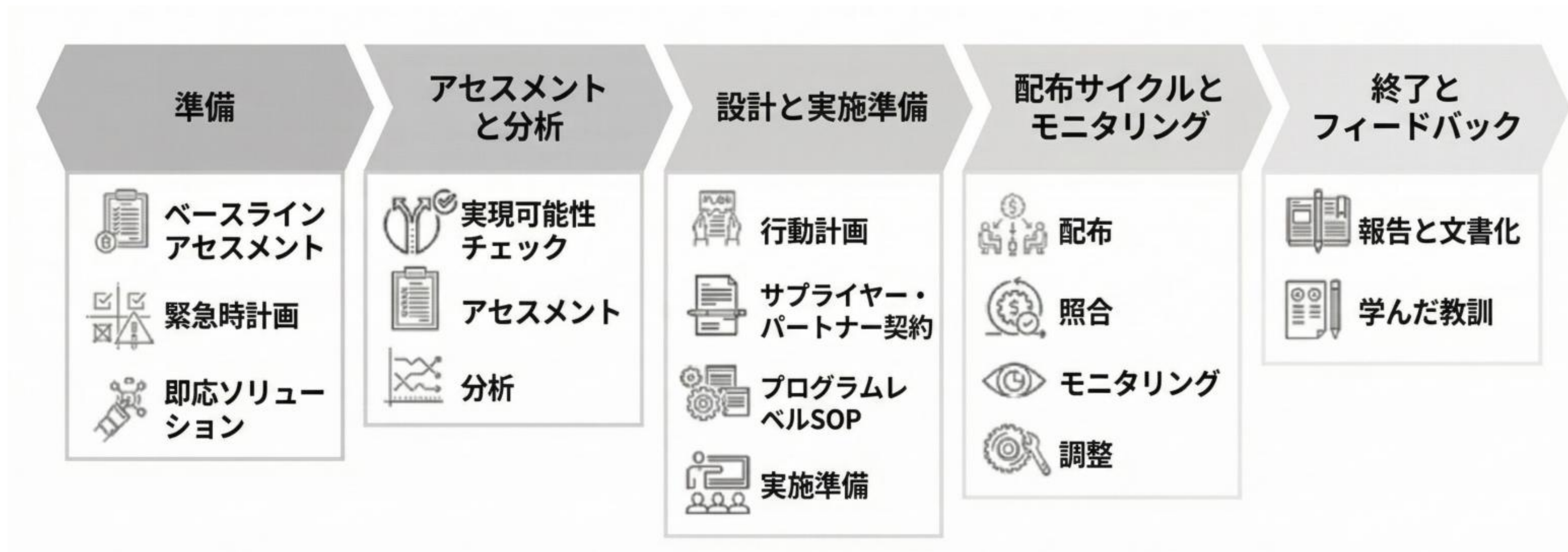


コミュニティと政治的受容

- コミュニティで現金支援への認知・受容がある
- 政治的にも現金支援への認知・受容がある



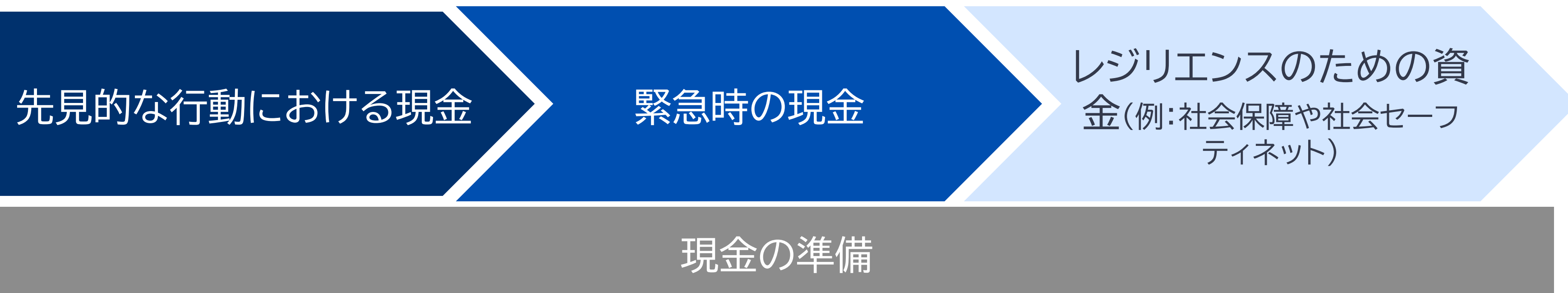
CVAプロジェクトサイクル



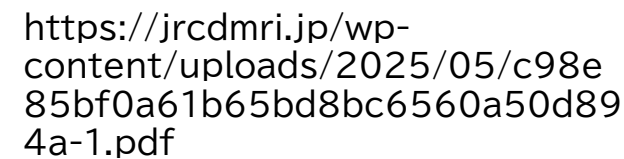
基本的な CVA 準備のためのチェックリスト:

<https://cash-hub.org/resource/checklist-for-basic-cash-and-voucher-assistance-cva-readiness/>


災害の前・最中・後に適用できる




- 運動におけるCVAの主なリソース:
CashHub - <https://cash-hub.org/>
- 「現金給付プログラムのガイドライン」(日本語訳)
- テンプレートと例: 緊急時のための現金ツールキット
- Eラーニングと実践的なトレーニング
- 人道支援分野からの CVA に関するすべて: Cash Learning Partnership (**CaLP**) -
<https://www.calpnetwork.org/>
- 実践コミュニティ
- 国際赤十字パートナーからのネットワークサポート(専門家派遣、準備を含む)



最低基準
&
ベストプラクティス



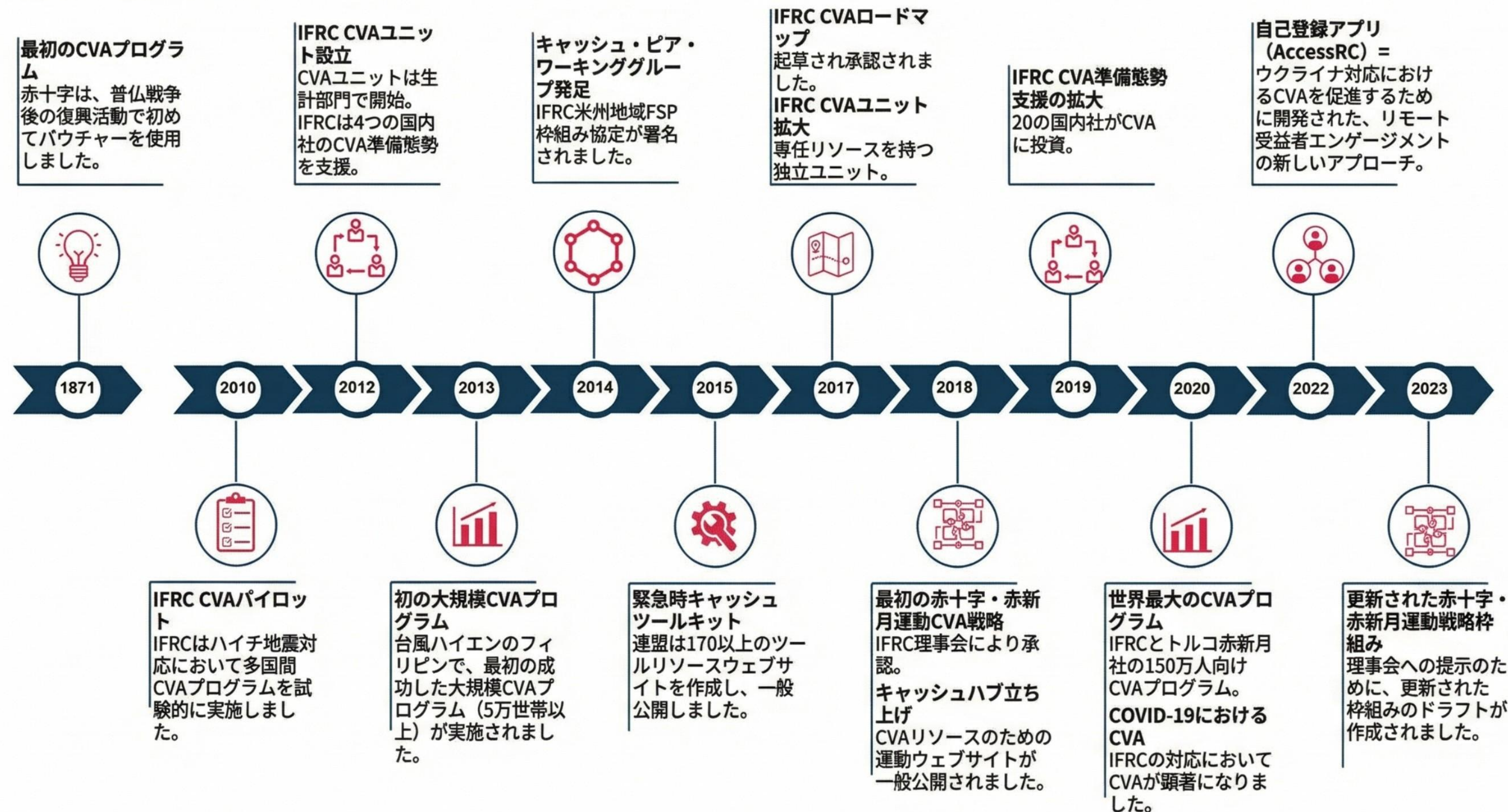
CURRICULUM
Cash and Voucher Assistance -
The Fundamentals

Request 

IFRCのCVAの歴史

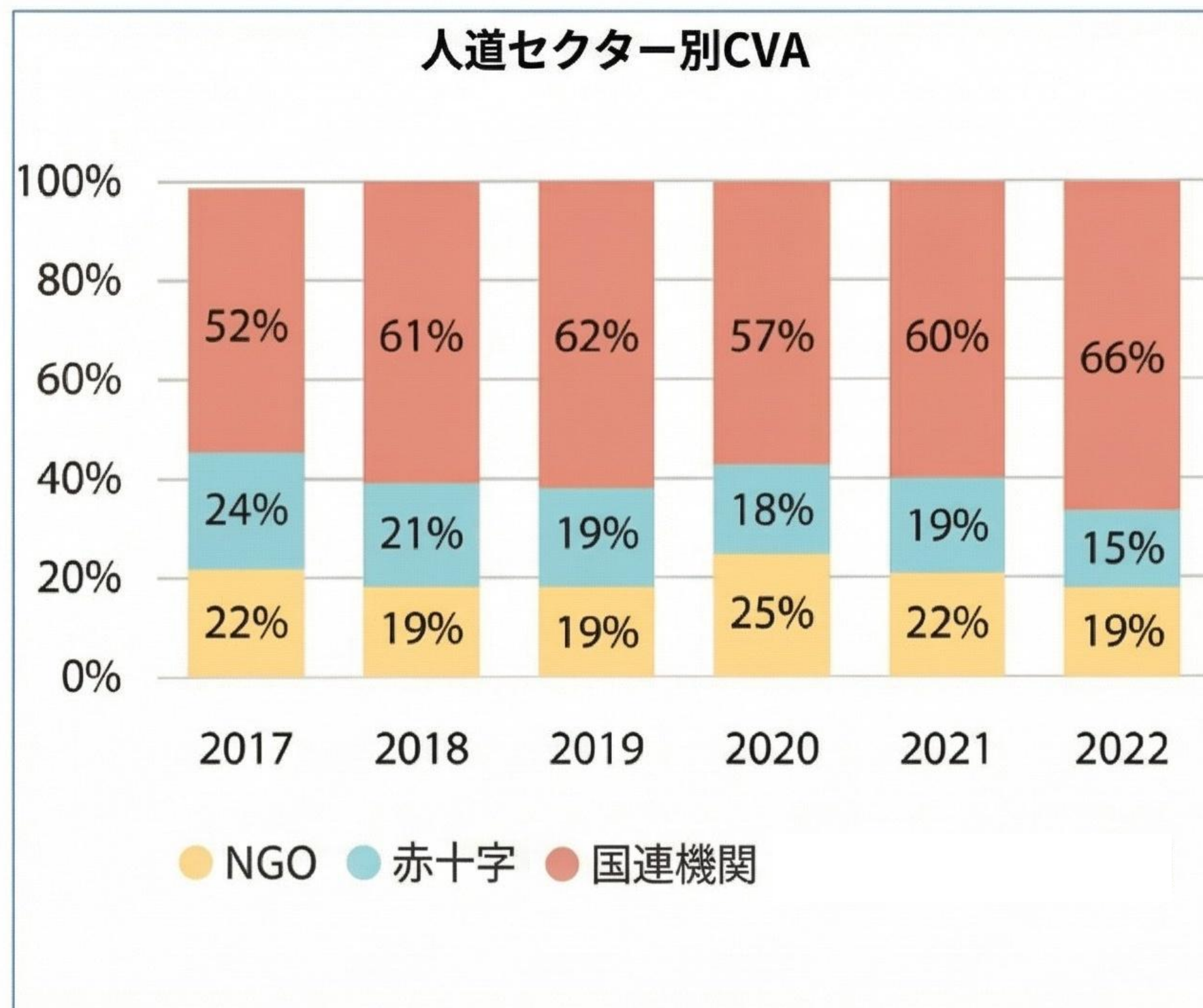


IFRCにおける現代的なCVAは2000年代初頭に始まりました。以下のタイムラインは、過去20年にわたるIFRCおよびそのメンバーにおけるCVAの進歩を示しています。



世界規模で見た国際赤十字等のCVA実績

人道セクター別CVA



国際赤十字全体のCVAの実績

	受領者数	国数	CHF (スイスフラン)
2017	5.6百万	83	767.1百万
2018	3.6百万	56	782.3百万
2019	6.5百万	93	842.8百万
2020	10.2百万	115	867.7百万
2021	7.5百万	94	916.7百万
2022	10.4百万	100	1029.4百万
2023	12.0百万	90	878.4百万

国際赤十字の戦略目標

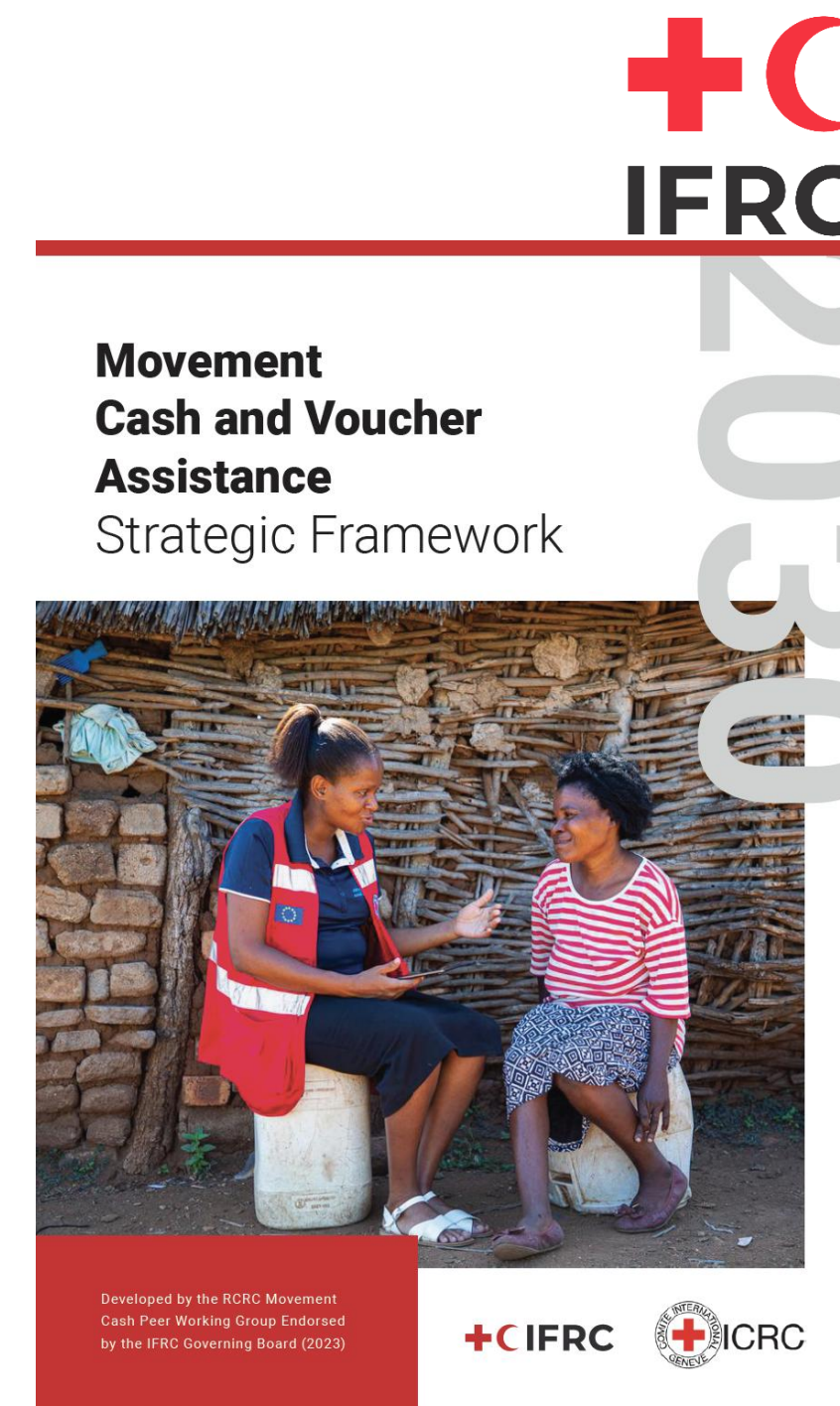
国際赤十字のCVAビジョン:

現金・バウチャー支援を通じて、人々が危機に備え、対応し、回復しながら、レジリエンスを生み出し、安全で健康的、尊厳ある生活を送り、発展する機会を得られるようにする。

国際赤十字には3つのCVA目標があります。

- **ローカリゼーション**: その国の赤十字社の恒常的な地域コミュニティへのアクセスと公的機関の補助的役割を活用し、CVAを現地主導で実施
- **グローバルリーチ**: 現地関係者と国際赤十字のユニークな連携のもと、グローバルネットワークの支援により、CVAを活用した人道支援を実施
- **主流化**: CVAを全セクターの標準的な対応策とし、統合的な支援を推進し、人道活動の全段階で多様なニーズに対応

IFRCは、2026年までに人道支援の50%を現金とバウチャーで提供することを約束





高所得国/先進国での実践

先進国の状況

1. 十分に発達した市場
小売業とサービス業が盛んで、多様なニーズを満たすための現金利用が非常に容易
2. 規制および政策環境
既存の社会保障・セーフティネット、確立された福祉・社会プログラム、ターゲティング手法、複雑な規制枠組み、当局との連携、法令遵守(データ保護、税など)ーCVAは重複せず補完的に
3. 高度なインフラ:
多様な金融サービス、デジタル決済システム、安全・迅速な送金、人々はテクノロジーに精通しSNSでつながっている
4. 都市と農村の環境
生活費の高さ、市場やサービスへのアクセス、災害時の大規模人口への影響、難民など隠れた脆弱層

共通の課題



1. 認識と偏見の問題

- 公衆の懸念:「現金は“施し”による依存を生むのでは？」
- メディア・政治リスク:説明責任や不正の懸念
- ドナーのためらい:誤用リスクへの慎重姿勢
- 受益者側の受け取りについての否定的感情:現金は物資よりも施しを受ける「恥」を感じやすい



2. 公的施策との整合性

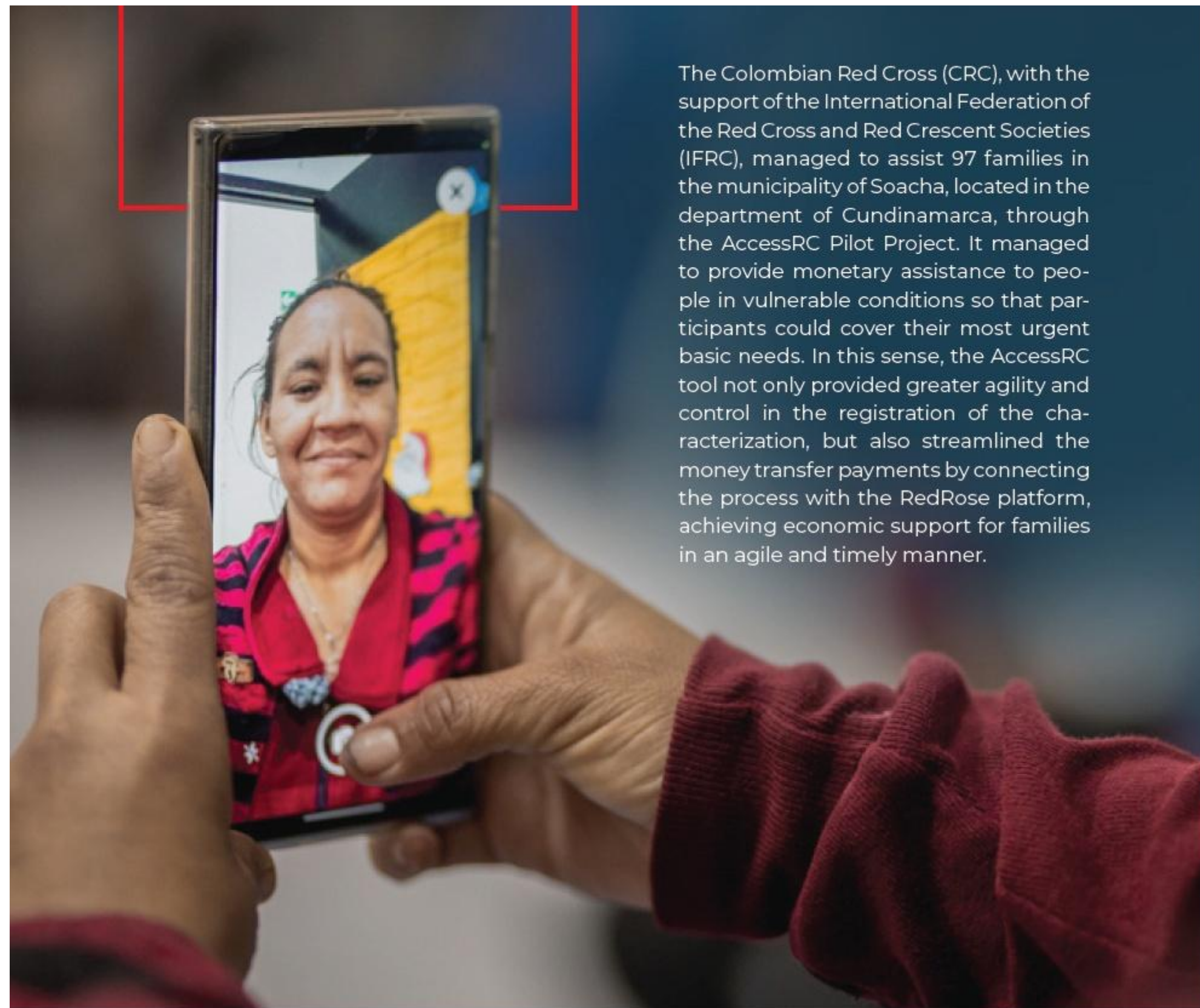
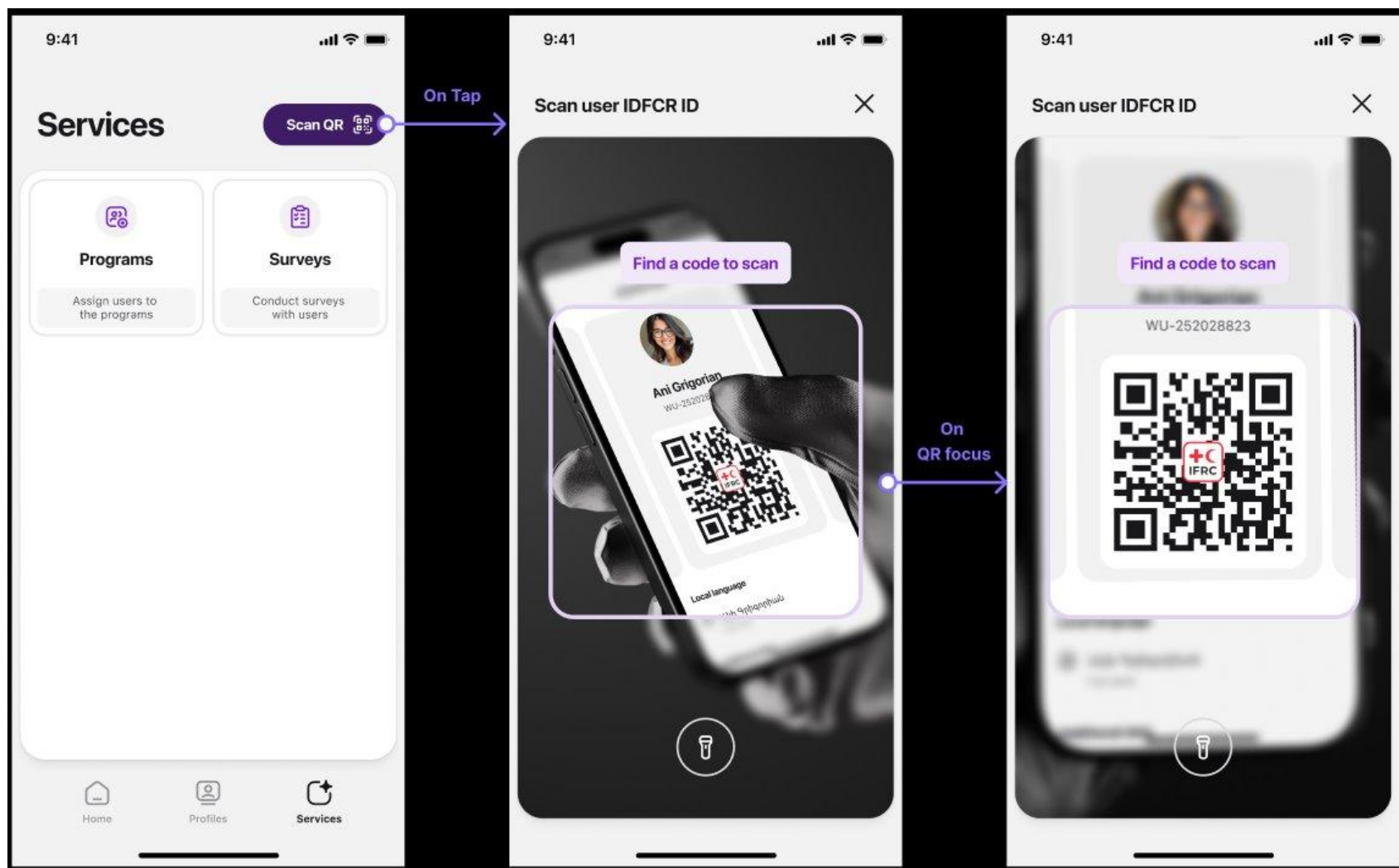
- 管理上の懸念:CVAは政府システムよりも説明責任が低いとみなされている
- 重複リスク: 既存のプログラムと重複していると認識される (例: 義援金)



3. 公平性 vs. ニーズに基づくターゲティング

- 公平性への期待:コミュニティは平等・透明な配分を求める
- 脆弱層の排除:一部の人々が政府制度から漏れる
- コミュニケーションギャップ:ターゲット基準を明確にする必要がある

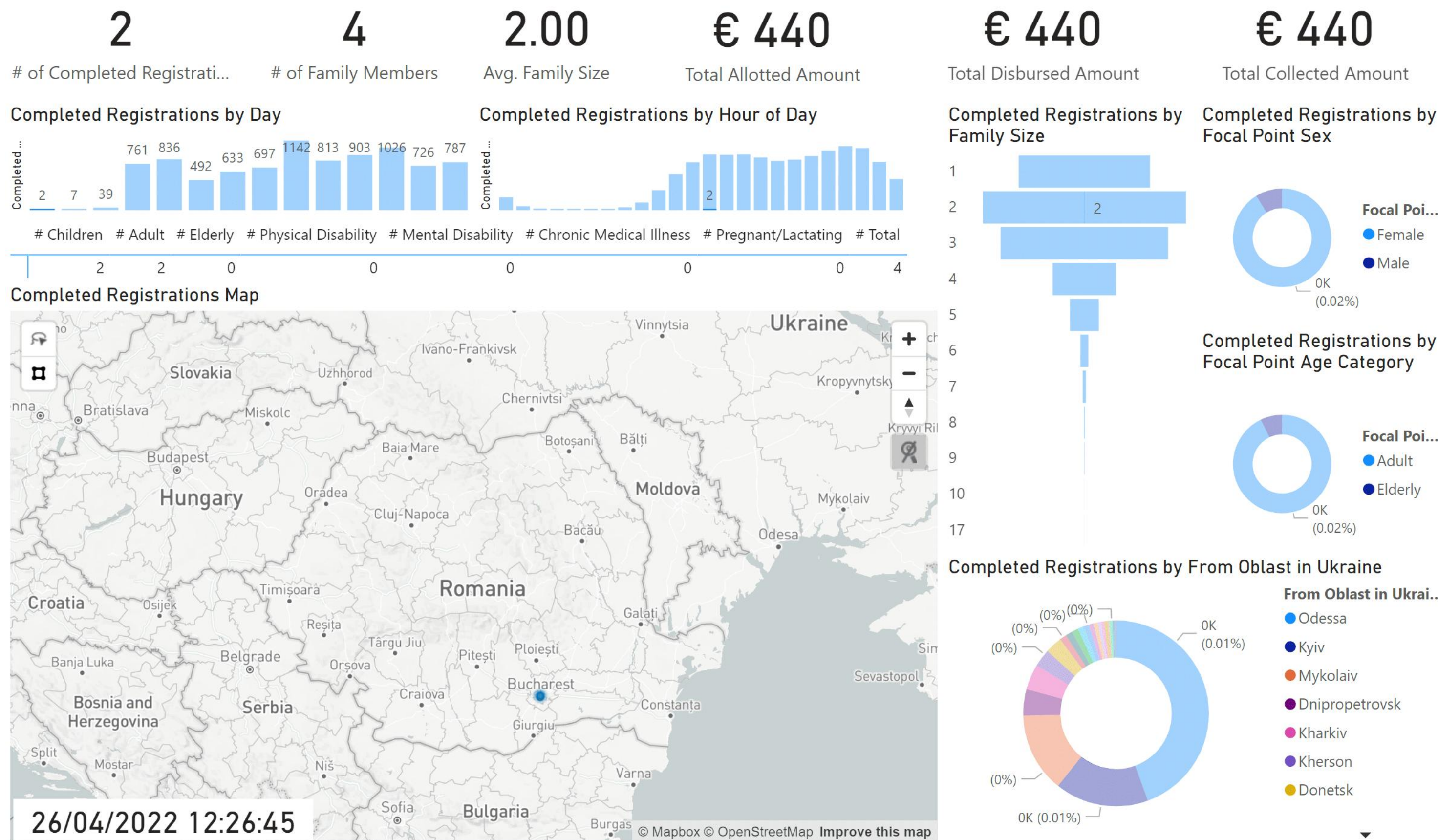
AccessRC – CVAのスケールアップを可能にするテクノロジー



The Colombian Red Cross (CRC), with the support of the International Federation of the Red Cross and Red Crescent Societies (IFRC), managed to assist 97 families in the municipality of Soacha, located in the department of Cundinamarca, through the AccessRC Pilot Project. It managed to provide monetary assistance to people in vulnerable conditions so that participants could cover their most urgent basic needs. In this sense, the AccessRC tool not only provided greater agility and control in the registration of the characterization, but also streamlined the money transfer payments by connecting the process with the RedRose platform, achieving economic support for families in an agile and timely manner.



AccessRC アプリ (ルーマニア) <https://accessrc.org/>



高所得国・先進国の赤十字社事例からの学び

アメリカ赤十字社



カナダ赤十字社



高所得国・先進国の赤十字社事例からの学び

英国赤十字社



The Hardship Fund team showing Bankable Visa cards that will be distributed to deliver cash assistance

オランダ赤十字社



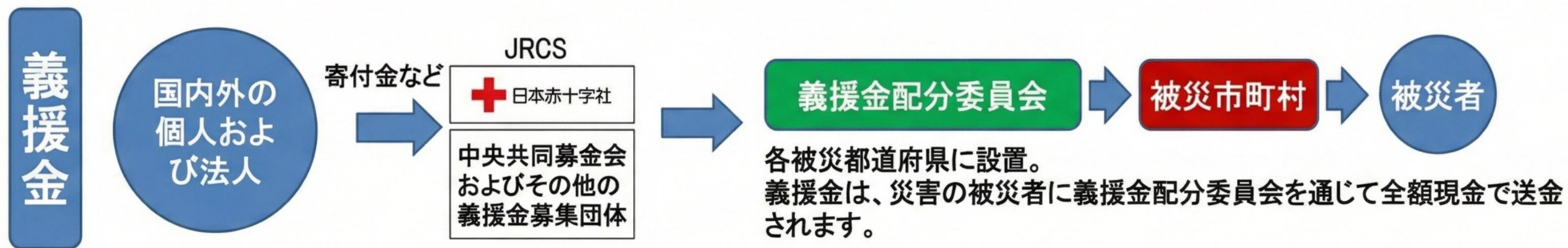
スペイン赤十字社





日本における適用機会

日本での現金給付 - 義援金の例





人道的CVAと他の方法との比較

フェーズ1(0～2週間):
緊急対応フェーズ

フェーズ2(2週間～3か月)
早期回復

フェーズ3(3か月以上):
復旧と復興

機構	効果	理由	効果	理由	効果	理由
人道的CVA	✔ 高	迅速な展開、緊急ニーズ対応	✔ 高	橋渡し支援、柔軟な対応	⚠ 中	長期解決への移行が必要だが、レジリエンス構築の橋渡しにも
保険	✖ 未対応	保険金未処理	✔ 中～高	保険金処理開始	✔ 高	復興資金
ローン	✖ 不適切	混乱時の負債増加	⚠ 限定的	返済能力ある人のみ適切	✔ 中程度	事業再開・収入創出
公的扶助	✖ 準備遅れ	書類手続きが多い	⚠ 限定的	対象者には恩恵、申請遅い	✔ 高	貧困層への継続支援
義援金	✖ 未実施	委員会未設置、詳細調査必要	⚠ 給付開始	この段階で配布開始の可能性	✔ 高	一部回復費用(生計等)をカバー

注:メカニズムの有効性と効率性は状況に依存し、介入の各段階の期間も状況に依存する。

先進国事例等に基づく提言

1. 人道的CVAの認知度を高め、実践的なノウハウを習得

- 経験のある各国赤十字社とのピア交流(例:英国赤、オランダ赤、スペイン赤)
- CVAのトレーニングと国際派遣経験
- 受け入れが容易な小規模なパイロットまたは実証(例:バウチャー＋物資)

2. プログラム上の考慮事項

- 人道的CVAは他の施策(特に行政主導の現金給付)を置き換えたり競合したりしない。CVAはギャップを埋める補完的役割。例:即時対応vs回復? より強固な選択肢が整うまで迅速な支援をどう提供するか?
- 人道的CVAを行政主導の社会保障やセーフティネットに繋げることで、より長期的なレジリエンス向上に寄与
- CVA導入＝物資支援の廃止ではない。CVAは実現可能かつ適切である必要があり、物資支援も依然として必要。CVA・物資・サービスを統合的に提供することで多様なニーズに対応。

3. 支援対象者の擁護を継続

- 人中心のアプローチ＝コミュニティとの対話、ニーズや希望の把握、尊厳の推進。現金はコミュニティに好まれるか? 恥やスティグマへの対応は?
- CVAは行政主導プログラムの対象外や支援が届かない人々にも役立つ可能性



Thank You!